

東海理化の存在意義

人が手掛けないことこそやる



創業者 加藤由雄は終戦から3年後の昭和23年(1948年)、トヨタ自動車工業(当時)の部品倉庫を訪れた際、偶然に片隅に落ちていた一つの自動車部品を見つけた。「これは？」と尋ねると「スイッチ」とのこと。「スイッチ製作は手間がかかり誰もやりたがらない。」という説明を受けた加藤は「必要ならば人が嫌がることでも誰かがやらねばならない。これこそ自分たちが新しく進出する分野だ。」と、スイッチの生産を思い立ち、西枇杷島町に『株式会社 東海理化電機製作所』を設立しました。

当社は従業員35名、菓子工場の一部を借り受けした工場から始まりました。東海「理化電機」製作所の社名は、「理」は理化学、「化」は化学、「電」は電気、「機」は機械となんでもやれるという意思表示です。「必要ならば人が嫌がることでも誰かがやらなければならない」という志とチャレンジ精神は、経営理念に受け継がれています。



東海理化の経営理念

経営理念

当社50周年記念の1998年8月に制定され、創業者 加藤由雄の理念を体現しています。「豊かな社会づくりに貢献」「個性とチャレンジ精神を尊重」「自然・地域と共生」といったキーワードを含むこの経営理念に基づき、2021年5月に発表した広い分野で社会課題の解決に取り組む「SDGs経営」や、2022年5月に発表した中期経営計画が生まれました。



創業者 加藤 由雄

1. お客様に喜ばれる商品を創造し、豊かな社会づくりに貢献する
2. 個性とチャレンジ精神を尊重し、若さと夢あふれた企業をめざす
3. 社会の一員として、法と倫理を遵守し、自然・地域と共生する企業をめざす

東海理化イズム

2021年4月に「先人の言葉」と「考動宣言」をまとめた冊子「東海理化イズム」が発行されました。

「先人の言葉」は東海理化に受け継がれるさまざまな信念、価値観、モノづくり手法を明文化したもの、「考動宣言」は私たちが考えて行動する際の道標になるものとなっています。

